



目的

多言語化への
ニーズ

世界遺産に登録するための取組みが各方面から進められているものの、札所案内板が未だに多言語化されていない。各札所の歴史については、機会翻訳では意味が伝わりにくい側面もある

四国を代表するコンテンツへ

デジタル活用

受入環境整備

「Lonely Planet's Best in Travel 2022地域編」で第6位選出に貢献した四国遍路には、多くの訪日外国人旅行者が見込まれ、受入環境整備が求められる

巡礼者数を把握する手段が太龍寺のロープウェイ利用者だけでしかなく、早急にビッグデータ収集手段を確立する必要がある

事業内容

各札所案内の
多言語化

四国八十八カ所霊場の各札所に関する歴史や魅力等を紹介する多言語専用Webページを全札所分作成
(日、英、韓、繁体、簡体、仏、独、西)

お遍路のDX化

データの
収集と分析

QRを活用した
多言語案内表示

QRコードを活用し、各札所を紹介する多言語専用Webサイトへアクセスできる仕組み

QRコードを読み取る際にアクセスデータが取得でき、データ分析により、今後の観光振興に役立てる



各札所案内の多言語化

多言語専用Webページ

霊場会の日本語テキストは、歴史的な文章であり、文法、表記方法など難解なものも多く、翻訳には適さないことから、日本語テキストの修正作業を実施。英語及び中国語（繁体字・簡体字）は、ネイティブ翻訳。その他言語については、ネイティブ翻訳した英語テキストを機械翻訳にて実施。

第一番 霊山寺



寺の歴史

四国八十八ヶ所霊場の全行程はおよそ1460キロにおよびます。札所番号の順に巡拝する者にとって、ここは免職の寺であり、同行二人の長い旅の始まりにもなります。

縁起によると、聖武天皇（在位724-49）の勅願により、行基菩薩が霊山寺を開創しました。815年、弘法大師は四国の東北から右廻りに巡教しました。そして、衆生の88の煩惱の浄化や心身の救済のため88の霊場を開こうと、この地で37日間修法を行いました。その時、数多くの僧侶が弘法を説く一老師を取り囲み、熱心に耳を傾けている光景を見たといわれます。その光景がインドの霊鷲山で釈迦が説法をしていた情景と似ていたことから、インドの霊山を日本に移すという意味で「竺和山・霊山寺」と名づけました。

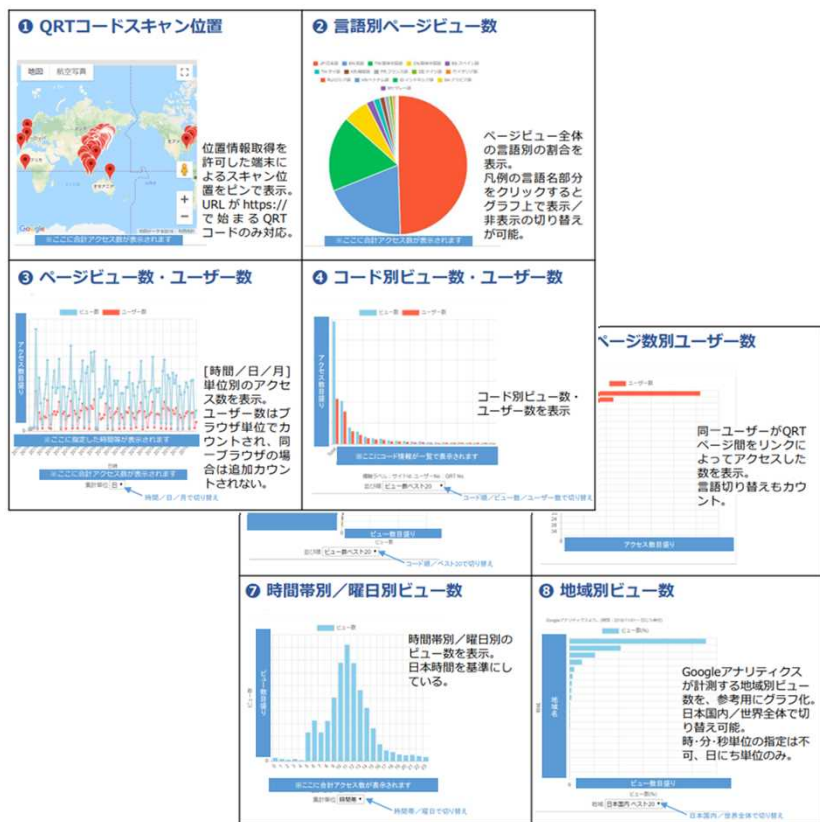
このときの弘法大師の念持仏が釈迦誕生仏像です。白鳳時代（645-710）の作で、身の丈約14センチの小さな銅像です。弘法大師はこれを本尊の前に納め、この寺を第一番札所とした四国八十八ヶ所霊場の開設を祈願しました。

データの収集と分析

QRTranslator

PIJIN社が提供するQRTranslatorを活用することで、外国人旅行者がスマートフォンでQRコードを読み取る際にアクセスデータを収集・分析し、ダッシュボード機能を通じて、可視化情報を管理者へ提供する。巡礼者数の把握等により、今後の観光施策への活用が期待される。

ダッシュボード機能



QRを活用した多言語案内表示

各札所掲載のQR

Welcome to the Shikoku 88 Temple Pilgrimage

Temple Guide No. 1 **Ryōzenji**

Scan QR code!

QR Translator

日本語 English 簡体中文 繁体中文 繁體中文 Français Deutsch Español

Scan above QR code to access the temple guide in multiple languages. QRコードを読み取ると、札所についての情報を多言語でご覧いただけます。

外国人旅行者

1 QRコードをスキャン

各札所等に掲載されたQRコードを読み取る



2 Webページを閲覧

スマートフォンの言語設定に応じた多言語で札所情報が表示される

- 専用アプリ等のダウンロードは不要
- 15言語まで自動表示
- 文章、画像、地図、位置情報等を表示



管理者

3 アクセステータを取得 (CSV)

- 閲覧ページ（札所のページ）
- アクセス位置（スキャン位置）
- 利用言語、設定言語
- 日時
- 使用ブラウザ 等

4 ダッシュボードによる可視化

取得した旅行者データは分析・可視化のうえ管理者に提供される